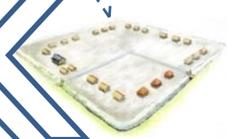




恒川 NEWS

ゴング ニュース

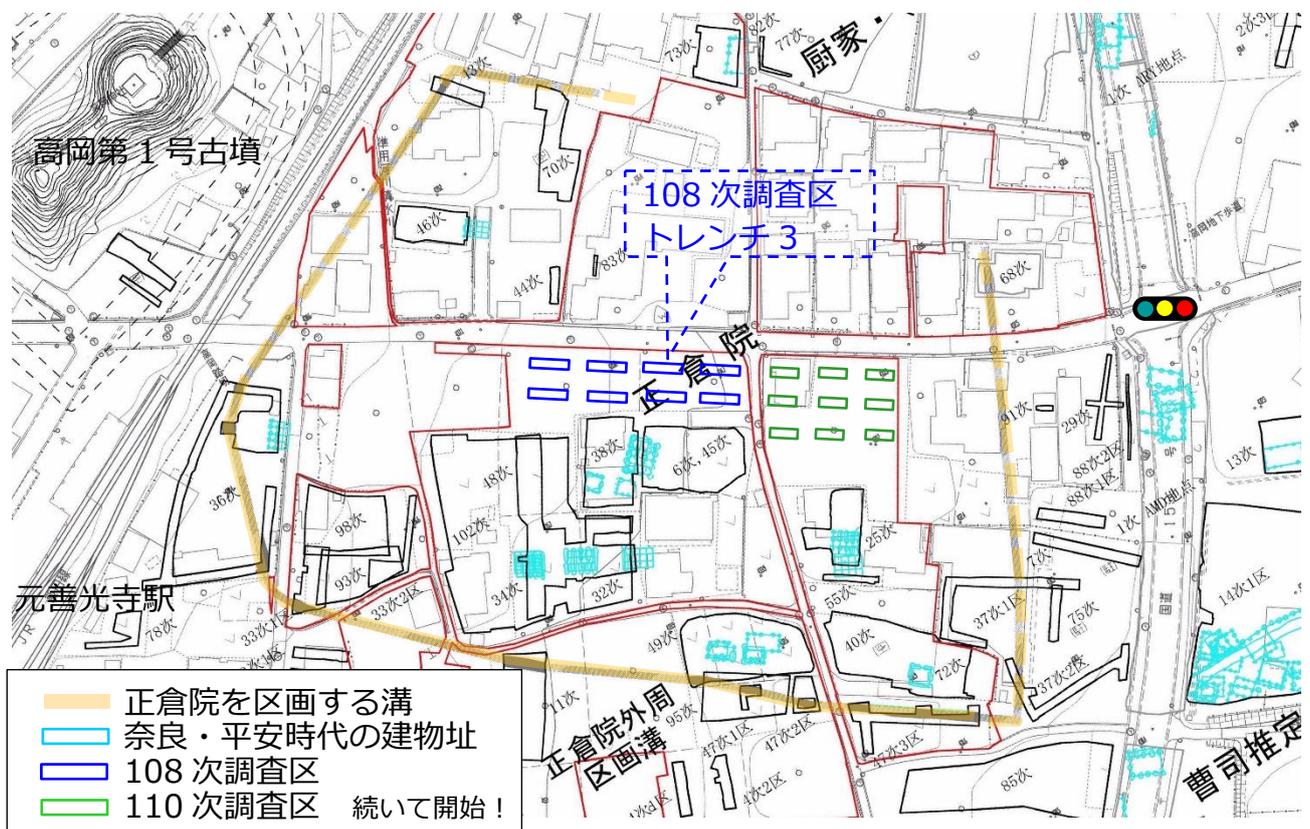


108 次調査が終了しました！

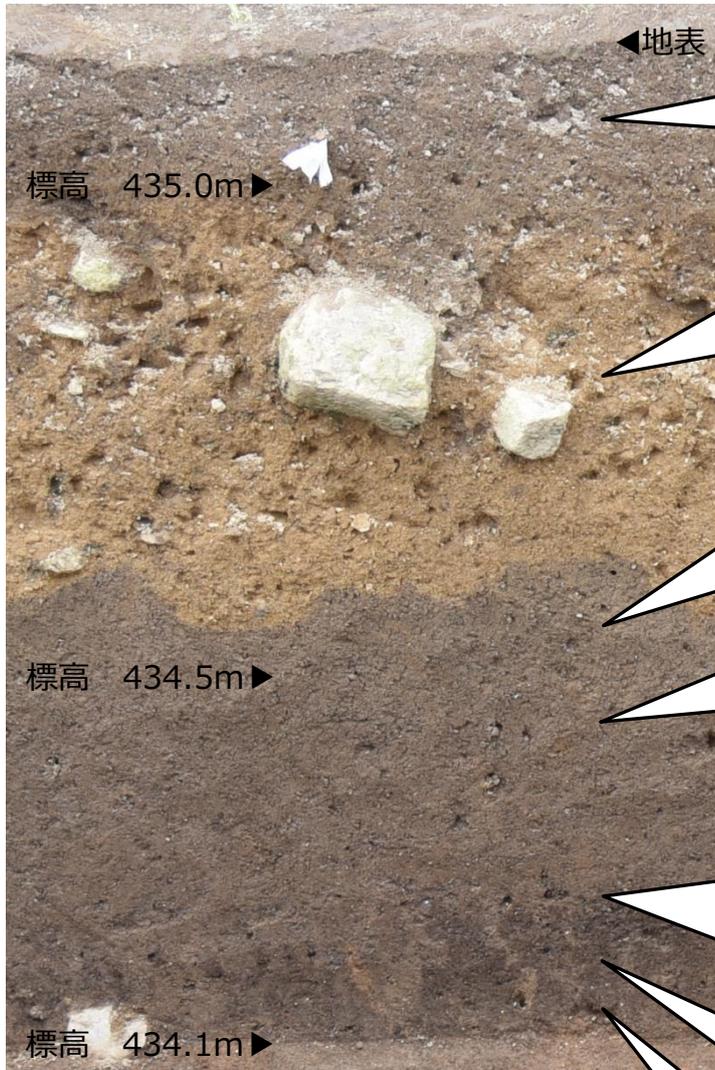
6月から実施している恒川遺跡群 108 次調査が 10 月で終了しました。108 次調査区は正倉院のほぼ中央に位置します。これまで正倉院の南側では正倉建物列が確認されていますが、この辺りは未調査で実態が不明でした。新たな正倉列が確認されるか、正倉院の中央広間が広がっているか、トレンチ調査（筋掘り調査）を実施しました。

主な調査成果

- 正倉建物は確認されませんでした。この場所は、正倉院の中央広間と考えられます。
- 整地層は確認されませんでした。正倉院内は自然地形を活かした空間と考えられます。
- 埋没した旧河川と湿地の傾向を示す地層が確認されました。
一方、正倉建物が確認されている場所ではこうした地層は確認されないことから、正倉院の中でも土地の性質を見極めて建物配置をしていたものとみられます。
- 平成 11 年に「厨」と墨書された土器が出土した旧河川の延長を確認しました。
この旧河川は平安時代後半に流れ、埋没したと考えられます。
今後、出土した土器の年代を調査し、正倉院と官衙の終焉の年代に迫ります。



調査区位置図



◀地表

江戸時代～現代の畑の土 (灰色)
未満水の洪水砂に一生懸命肥料を混ぜたり、古い耕土を掘り起こして畑として再生したんだ。

未満水 (1715年) の洪水砂 (黄土色)
伊那谷有史以来の大洪水といわれており、ここでは南大島川が氾濫したんだ。よ〜く見ると、ヒタヒタと泥水が迫る第1波と、土石を含んだ濁流の第2波があったことが見えるよ。

江戸時代の畑の土 (灰色)
黄色い洪水砂との境に畑の畝 (波形) が見えるね。洪水砂でパックされたんだ。何を栽培していたんだらう？伊那郡衙があった奈良・平安時代の地表面もこのあたりだと考えられるよ。

江戸時代以前の古い表土 (濃い灰色)
盛土や造成をすると、いろんな色の土がブロック (塊) になって混ざるんだけど、ブロックは見えないな。江戸時代の畑よりも僅かに暗い色をしているよ。

酸化鉄 (赤茶色)・マンガン (こげ茶色) の沈殿層
長い間水が貯まると、底に錆びた鉄分とマンガンが沈殿して上が赤く、その下が黒くなることもあるんだ。水平じゃなくて地形に沿って傾斜した堆積なので、田んぼの可能性は低いんじゃないかな。。。写真だと赤色は見えにくいかな？

更に古い時代の表土 (こげ茶色)
元々は黄色い地山だったんだけど、長い間植物が茂ると、その死骸 (有機物) で土が黒くなるよ。

地山 (黄色い砂礫層)
1万年位前に南大島川や天竜川が運んできた土砂で出来ているよ。ここまで掘り下げると遺構 (昔の建物などの痕) がクッキリと見えてくるよ。

正倉院中央部の地層

(恒川遺跡群 108 次調査区トレンチ 3 南側壁面)
102 次調査の成果から、正倉院があった頃の地表 (生活面) の高さは、江戸時代の畑とだいたい同じくらいと考えられます。ですが、土層の堆積状況から地山まで下げないと古代の遺構はほとんど認識できないため、慎重に地山まで掘下げました。

恒川まいにち見学会！

恒川官衙遺跡の発掘調査では、毎日現場のようすを直接ご覧いただけます。お気軽にお立ち寄りください。

- ・平日 10 時～15 時
- ・土日祝祭日・年末年始・雨天等休み
- ・現地で調査員が直接解説します。

なお、調査の都合により、立入りをご遠慮願う場合もございます。

史跡恒川官衙遺跡調査速報 30

令和 3 年 11 月 25 日発行
飯田市教育委員会
文化財保護活用課 文化財活用係
調査担当者：羽生俊郎
TEL：0265-53-3755
E-MAIL：bunkazai@city.iida.nagano.jp
HP：https://www.city.iida.lg.jp/site/bunkazai

